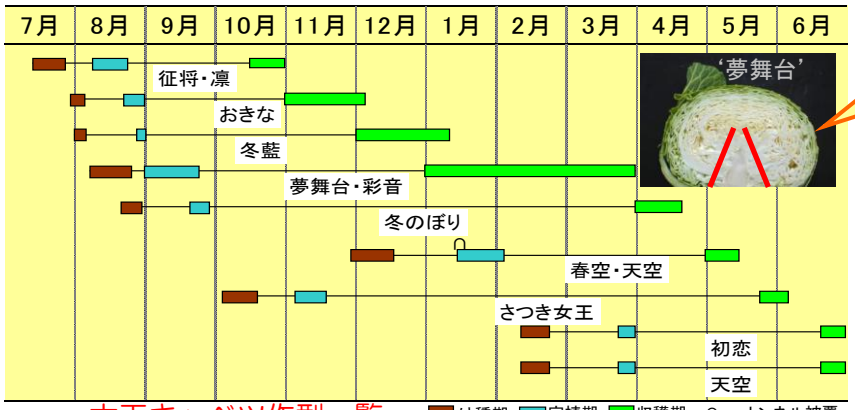
加工・業務用キャベツ生産のための栽培技術と省力化体系

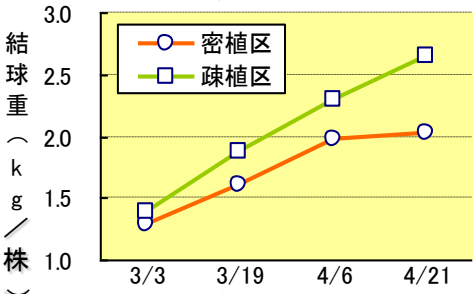
【背景・目的・成果】
加工・業務用の野菜消費が増加しており、キャベツでは生産量の約半量を占めています。加工・業務用には加工時の歩留まりや作業性から家庭消費用のM・Lサイズ（1～1.6kg）よりも大きいサイズが求められます。そこで、加工・業務用の大玉キャベツ栽培に適する肥大性が良い品種を選定し、大玉生産のための栽植密度等の栽培方法と大型コンテナを用いた省力的な収穫出荷方法を開発しました。

大玉キャベツ生産による収量アップ



大玉キャベツ作型一覧

結球部に葉が詰まった寒玉系品種で、肥大性が良く、芯の部分が小さい品種を選定しました。

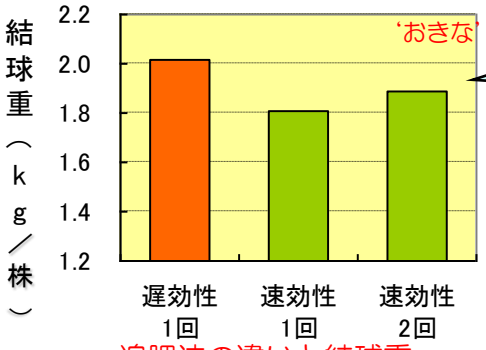


栽植密度と結球重

疎植にすることで、結球内部に葉が十分に詰まってから収穫できるため、収量が増加します。

収量30%アップ
結球重　1.5kg　→　2.0kg
収　量　5t/10a→　7t/10a

施肥法の省力化・低コスト化



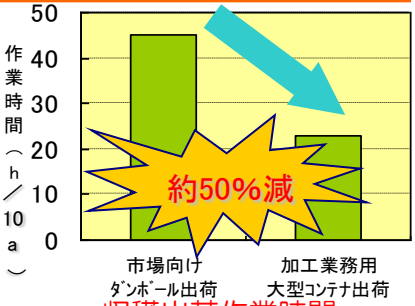
追肥法の違いと結球重
※いずれの区も元肥は速効性化成肥料を使用

①省力化
追肥に遅効性肥料を用いることで、追肥1回での栽培が可能です。

②低コスト化
鶏糞を元肥として施用した場合、窒素量で20kg/10aが最適です。

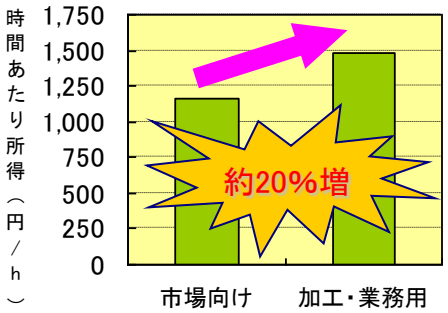
大型コンテナ利用による収穫出荷作業の省力化

ほ場で大型コンテナに入れそのまま出荷



収穫出荷作業時間

労働時間あたり所得の増加



労働時間当たり所得
※市場向け:5,000株/10a、選択収穫、10kg段ボール出荷、加工業務用:4,000株/10a、一斉収穫、400kg大型コンテナ出荷として試算

【技術の活用】上記技術の組み合わせにより、時間当たり所得が市場向けに比べ約20%増加します。追肥や収穫作業の省力化も図れるため、個別農家だけでなく集落営農でのキャベツ生産にも活用できます。

兵庫県立農林水産技術総合センター　農業技術センター